

「人・社会・自然」ハーモニープロジェクト

住民主体で活性化を行う地域

美和



2012年～2020年の歩み 及び
2021年度計画発表会

2021.6.22(火) 美和工芸ふれあいセンター



森と地域の調和を考える会・「木の駅プロジェクト美和」実行委員会

目次

I.	2012年～2020年の歩み	P.2
II.	2020年度活動概要報告	P.8
1.	「木の駅プロジェクト美和」	
1)	出荷の状況	P.9
2)	出荷量の推移	P.10
3)	「モリ券」の発行・利用状況	P.11
4)	「木の駅プロジェクト美和」 の成果と課題	P.12
2.	当会活動の様子	P.13
3.	イベント及びボランティア参加人数	P.15
III.	2020年度活動計画と実績	P.16
1.	当会の活動計画と実績①	
IV.	2021年度の活動計画	P.19
1.	当会の今後の取り組み	
V.	SDGs と当会の活動	P.22
VI.	常陸大宮市の宝（資源）	P.23

VII.	地域活性化を成功させるのは「人」	P.24
VIII.	おわりに	P.25



2012.06.17 第一期スタート

I . 2012年～2020年の歩み



I. 2012年～2020年の歩み ①



美和
常陸大宮

森と地域の調和を考える会 2012-2020

森と地域の調和を考える会は、人口減少が進み衰退していく地域の現状に危機感を抱き、2012年4月に発足しました。美和地域の「宝」をつなぎ、この地域全体に活気と明るさが広がり、持続可能な地域になることを目指し活動しています。活動にあたっては、各地区の多くの方々の協力を得て、様々な取り組みを実施しています。

美和地域の現状

常陸大宮市美和地区（旧美和村）は、茨城県北西部に位置し、森林率83%の自然豊かなところです。昔は林業・農業が盛んで、昭和40年頃には、地区人口が8千人以上と、豊かに繁栄した時代がありました。しかし、時代の流れと共に、主産業である林業・農業が衰退し、2019年度には遂に地区人口が2千人台に入り、過疎化と高齢化が一段と加速している状況にあります。

豊かな自然 森の恵み	里山 日本の原風景	歴史 歴史的価値
森林資源 木竹、木質バイオマス、薪、チップ、オガ粉 食料 木の皮、山菜、キノコ、アケビ、沢ガニ、ウグイス 水 山から湧き出す自然水、湧水	食料 米、麦、そば、野菜、果物、木の皮、山菜、川魚 エネルギー 薪、薪木、水車 地域の絆 地域で支え合う	開発の遅れが歴史的価値を現存させた 高瀬の街並み 中世の城郭跡 廻り酒屋 洋館 旧宿場町 神社仏閣など

地域資源を活用すべくアイデアを出し合って地域の活性化を図る

エネルギー

環境負荷を抑えた暮らし

食

自給自足も可能な暮らし

生活

心豊かな暮らし

全ての人々に降り注ぐように



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

「持続可能な開発目標(SDGs)」と当会の活動
2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です
当会の取り組みと関連する主なテーマ

「持続可能な開発目標」とは、2015年9月の国連サミットで採択された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール-169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。実現途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。私たちの活動もこの取り組みにつながっています。
(参考)「地方創生に向けた自治体SDGsの推進について」平成29年12月内閣府地方創生推進事務局作成

I. 2012年～2020年の歩み ②

森と地域の調和を考える会 活動の記録 2012年度-2020年度

■ 2012年度

- 2012年 4月1日 「森と地域の調和を考える会」発足
- 6月1日 「木の駅プロジェクト美和」合同説明会(美和工芸ふれあいセンター)
- 6月17日 「木の駅プロジェクト美和」第一期社会実験スタート
- 7月20日 NHKニュースワイド茨城「木の駅プロジェクト美和」の取組が放映
- 8月31日 「木の駅プロジェクト美和」第一期社会実験終了
- 10月13日 「木の駅プロジェクト美和」合同安全講習会
- 10月20日 「木の駅プロジェクト美和」第二期スタート
- 12月14日 BSジャパン「百年のまちなみ」高部宿放映
- 2013年 2月26日 筑波大学サービス科学科「理論と実践」講演(龍崎代表)
- 3月1日 第1回「森林教室」常陸大宮市大宮北小学校(5年生:25人)

■ 2013年度

- 2013年 4月25日 「木の駅プロジェクト美和」第三期スタート
- 常備ビジネスアワード2012 奨励賞受賞
- 6月13日 「高部館整備」(その1)
- 6月21日 「高部館」地域住民見学会
- 7月27日 「木の駅プロジェクト美和」第四期スタート
- 10月19日 遠隔地搬出研修会
- 11月7日 「美和の新販売会」
- 2014年 1月25日 「美和オールド」開催(茨城大学人文学部都市計画研究所 共催)
- 3月8日

■ 2014年度

- 2014年 5月24日 「木の駅プロジェクト美和」第五期スタート「岡山邸 養浩園下見」
- 6月21日 「岡山邸 養浩園整備」(その1)大規模整備
- 7月12日 「高部館整備」(その2)
- 10月10日 「岡山邸 養浩園整備」(その3)池の水の復元、竹垣
- 11月1日 歴史探案ツアー「美和の新販売会」同日開催
- 11月15日 「木の駅プロジェクト美和」第六期スタート
- 12月7日 歴史探案ツアー「高部宿・高部館(前半)」
- 2015年 2月1日 歴史探案ツアー「高部宿・高部館(後半)」
- 2月16日 インターンシップ(東洋大学2年 小澤理奈さん)受入れ
- 3月16日 インターンシップ成果発表会/当会HP作成について
- 3月20日 小澤理奈さん送別会
- 3月23日 「岡山邸 養浩園整備」(その3)浮島への木橋復元一横目
- 3月31日 「お宝マップ美和」発行4,000部(美和地区全戸へ配布する)

■ 2015年度

- 2015年 5月23日 「木の駅プロジェクト美和」第七期スタート
- 6月7日 「高部向館整備」(その1)
- 7月25日 「高部館整備」(その3)
- 10月30日 「環境教室」美和小学校3年生
- 11月14日 「木の駅プロジェクト美和」第八期スタート
- 11月29日 「トレッキング美和」
- 2016年 2月29日 美和工「木でつくる暮らしの道具コンテスト」表彰式
- 3月12日 「歴史探案ツアー」高部宿・高部向館

■ 2016年度

- 2016年 5月1日 「ウッドクラフトフェア美和」開催
- 5月28日 「木の駅プロジェクト美和」第九期スタート
- 6月14日 公益財団法人 東日本鉄道文化財団「中世の城郭高部館整備事業」助成授与式
- 7月23日 「高部館整備」維持管理及び丸木のベンチ設置
- 7月30-31日 「東北芸術祭応援事業」旧美和中学校会場整備
- 9月27日 「河内城・向館」整備
- 10月15日 豊島区交流事業「ウッドジョブ」林業体験
- 10月22日 「木の駅プロジェクト美和」第十期スタート
- 11月5日 「地域の魅力探案ツアー」高部宿・尺丈山を巡るツアー
- 2017年 2月19日 「中世の城郭高部館整備事業」看板設置(上・下)東日本文化財団補助事業
- 3月5日 「歴史探案ツアー」簗子宿・河内城・河内城向館
- 3月17日 「中世の城郭高部館整備事業」歩道整備・案内板設置/東日本文化財団補助事業

■ 2017年度

- 2017年 6月10日 「木の駅プロジェクト美和」第十一期スタート
- 10月4日 「小田野城整備」(その1)
- 10月21日 「山城ツアー」高部館・高部宿街並み(常陸大宮市集中曝涼)
- 10月28日 「木の駅プロジェクト美和」第十二期スタート
- 11月18日 「美和の新販売会&マイ箸手作り体験」
- 2018年 2月~3月 「養浩園門復元&裏屋補修」(東日本鉄道文化財団補助事業)
- 3月10日 「小田野城ヒストリートーク&山城ツアー」
- 3月24日 「高部宿解説案内板設置」2カ所(東日本鉄道文化財団補助事業)

■ 2018年度

- 2018年 6月9日 「木の駅プロジェクト美和」第十三期スタート
- 6月27日 「養浩園」池へ山女稚魚放流
- 9月28日 「河内城・向館」城郭維持管理作業(地域創生まちづくり事業補助)
- 10月4日 「高部館」城郭維持管理作業(地域創生まちづくり事業補助)
- 10月8日 「小田野城」城郭維持管理作業(地域創生まちづくり事業補助)
- 10月9日 「山城ツアー」高部館・小田野城」(常陸大宮市集中曝涼)
- 10月20日 「木の駅プロジェクト美和」第十四期スタート
- 11月17日 「養浩園」維持管理作業
- 2019年 2月23日 「櫛沢城整備」(その1)
- 3月10日 「山城ツアー」櫛沢城」

■ 2019年度

- 2019年 6月8日 「木の駅プロジェクト美和」第十五期スタート
- 6月8日 「文化財庭園保存技術研修会」開会式
- 6月9日~14日 「文化財庭園保存技術研修会」現地研修
- 6月15日 「文化財庭園保存技術研修会」現地見学会
- 6月16日 「庭園フォーラム」ロゼホール
- 9月28日 「養浩園整備」庭園池さらい
- // 「台風15号被害除去、倒木処理
- 10月26日 「櫛沢城整備」(その2)
- 11月2日 「木の駅プロジェクト美和」第十六期スタート
- 11月3日 「河内城・向館」城郭維持管理作業(地域創生まちづくり事業補助)
- 11月9日 「山城・街並みツアー」櫛沢城・養浩園(浪漫文化街並みづくり事業)
- 11月13日 「小田野城」城郭維持管理作業(地域創生まちづくり事業補助)
- 11月14日 「関東甲信越越前地区文化財担当職員研修会」事例報告(龍崎代表)
- 12月7日 「閑伏体験・街並み見学会」常陸大宮市お宝発見事業
- 12月14日 「養浩園整備」(落ち葉さらい)
- 2020年 3月7日 「小田野城」河内城説明板設置/常陸大宮市業務委託事業

■ 2020年度

- 2020年 4月19日 「養浩園」(草刈・木橋復元二横目)美和木材協同組合寄付事業
- 6月13日 「木の駅プロジェクト美和」第十七期スタート
- 7月11日 「養浩園」「天日さん」整備
- 7月27日 「美和地域振興意見交換会」鈴木市長・市幹部・当会・地元関係者
- 8月29日 「高部館の街並みについて」地域住民との意見交換会
- 9月1日 「茨城大学集中講義」美和地域活性化の取組について(龍崎代表)
- 10月20日 「養浩園整備」
- 10月24日 「木の駅プロジェクト美和」第十八期スタート
- 11月7日 「高部館維持管理作業」
- 11月15日 「小田野城維持管理作業」
- 11月29日 「ふるさと再発見ウォーキング」櫛沢内及び櫛沢城城跡
- 12月5日 「養浩園整備」落ち葉さらい
- 12月19日 「美和の新販売会」及び「マイ箸手作り体験」
- 2021年 2月11日 「美和の新販売会第2弾」(売りつくし販売会)
- 2月19日 「森林教室」出前授業 美和小学校5年生
- 2月27日 「木の駅プロジェクト美和」第十八期 合同出前会
- 3月6日 「櫛沢城説明看板」「高部向館説明看板」設置
- 3月 「森と地域の調和を考える会」の歩み2012~2020 記念誌発行



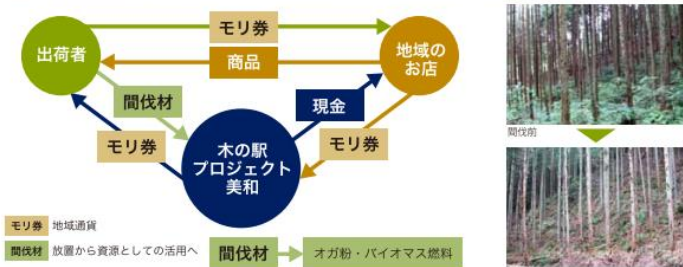
I. 2012年～2020年の歩み ③

木の駅プロジェクト美和

森林整備促進と地域活性化を目的とした事業です。

小規模自伐林家の人が、山に放置される林地残材を、搬出することを支援すると同時に、支払いを地域通貨で行うことで、地域経済活性化を同時に図っています。

この事業により、山の整備が進み森林機能が回復し、搬出された木材はオガ粉として加工され、畜産の敷材やキノコの菌床栽培に活用されます。【森林整備】⇒【資源の利活用】⇒【地域活性化】⇒【森林・地域の再生】と持続可能な循環型社会に貢献する活動です。



モリ券 地域通貨

間伐材 放置から資源としての活用へ



環境教室(森林・河川)

森に囲まれて暮らす子供たちに、森と川と海の関わり、人々の暮らし、水や空気の大切さ、動植物の多様性などの「学びの場」を提供しています。

【間伐体験】子供たちに、森の役割や間伐の必要性を理解してもらうために、間伐体験を行っています。実際に山に行き、ロープを掛け、安全が十分確保された状態で、子供たちにノコギリを使って伐採してもらいます。木を切る経験は初めての子がほとんどですが、徐々に慣れてきて、木が倒れた時には達成感に満ちた良い表情になります。この体験を通し、間伐の必要性、木を切ることの大変さ、地域の山を守る意義など、掛け替えのない「学びの場」を提供しています。

【河川の生態系調査】森から生まれた川は、様々な町や地域を通り、最後は海に流れ込みます。上流部の森や川を適切に管理することは、下流部に住む人々の暮らしを守り、海を守ることに繋がります。子供たちに、森と川と海の関わり、水の役割・大切さ、生物の多様性などの「学びの場」を提供しています。

【木質バイオマス利活用事業】森林資源の有効活用のため、常陸大宮市では「木質バイオマス利活用事業」を行っています。伐採、搬出、チップ工場、木質バイオマスボイラ施設、原木市場、大型製材工場などを見学し、子供たちに、「伐採・加工・活用・流通」まで、私たちの暮らしにどの様に活用されているかを学んでもらいます。

その他【紙すき体験】や【高性能林業マシン見学】なども行っています。



間伐体験



高性能林業マシン見学



出前授業



宮の郷工業団地見学



環境教室(河川の生態系調査)

美和の薪

間伐された広葉樹を利活用し、薪を製造販売する事業です。薪材には、主に「テラ・クヌギ」を使用し、火持ちが良く火力が安定する最高級の薪として、薪ストーブやキャンプに利用されます。この事業により、森林資源が有効に活用され、森林保全や森林機能回復、そして自然エネルギー利用促進に貢献する活動です。



薪販売会場



薪販売会場



薪削り体験



マイ箸手作り体験

木の駅プロジェクト美和

出荷の状況

速期合計(第1期～17期)

出荷材	寄付材	ボランティア	薪材	合計
2,845.13m ³	165.64m ³	171.43m ³	22.52m ³	3,204.72m ³

「モリ券」の発行状況

速期合計(第1期～17期)

モリ券	青モリ券	赤モリ券	発行枚数	金額換算
9,802枚	1,054枚	604枚	11,460枚	11,485,500円

発行割合: モリ券 8割

青モリ券 1割

赤モリ券 1割



モリ券・普通券

青モリ券:ガソリン専用券

赤モリ券:2次流通促進券

I. 2012年～2020年の歩み ④

中世の城郭整備事業 四百年の時を超えて残る 戦国時代の山城跡

鎌倉時代に佐竹氏が下野へと勢力を伸ばす拠点として築城、南北朝、室町、戦国、安土桃山時代へと続き、佐竹氏の秋田移封で幕を閉じる。



森と地域の調和を考える会では、歴史的遺産や自然を地域の宝と見え、未来へ継承していく活動に取り組む中で、美和地域に所在する中世城郭跡が茨城県内に残る山城跡の中でも大規模で歴史的価値も高いことを知り、調査整備事業に取り組みしています。

美和地域には七つの城郭跡と四つの向館跡があり、これまでに四つの城郭跡と三つの向館跡を調査整備しました。草刈りなどの整備にあたっては地域の方々と共に行動し、その後の維持整備に関しても地域の方々を中心となって活動しています。まだ調査整備していない城郭跡についても今後実施し、美和地域全ての城郭跡を美和地域の文化遺産としてまちづくりに活用していく計画です。

これまで平成26・27年度には高部地区に所在する高部館跡・高部向館跡の、28年度には鷺子地区の河内城跡・河内向館跡の、29年度には小田野地区の小田野城跡の、31年度には檜沢地区の檜沢城跡の調査整備をそれぞれ実施しました。その結果、各城郭跡では長い間草木に埋もれていた遺構が姿を現し、城の全体像が浮かび上がりました。そして、これらの城郭跡の整備後は、茨城大学中世研究会・茨城城郭研究会・常陸大宮市史編さん委員会等の協力を得て調査を行い、遺構を記録するようにつとめています。またその成果を、毎年、山城ツアーやパンフレットの発行等により広く公開・周知し、美和地域の文化振興に役立てています。



七城郭四向館

- 高部館 高部向館 (高部)
- 河内城 河内向館 (鷺子)
- 小田野城 (小田野)
- 檜沢城 下檜沢向館 (下檜沢)
- 高沢城 高沢向館 (鷺子)
- 水之沢館 (水之沢)
- 上檜沢館 (上檜沢)



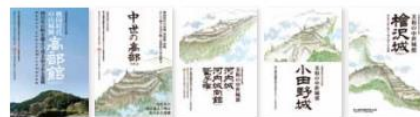
7

高部館

高部向館



山城ツアーポスター

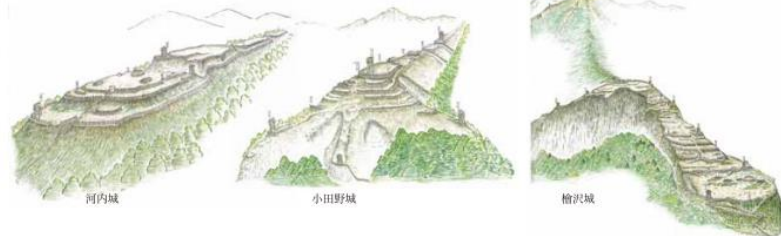


パンフレット

城郭	整備・調査	山城ツアー(単一)	パンフレット作成	説明看板設置
高部館	2014年	2014年	2014年	2017年
高部向館	2015年	2016年	2016年	2021年
河内城・河内向館	2016年	2017年	2017年	2020年
小田野城	2017年	2018年	2018年	2020年
檜沢城	2018年	2019年	2019年	2021年



地域の方々と設置作業を行なう



河内城

小田野城

檜沢城

8

I. 2012年～2020年の歩み ⑤

街並み保存修復事業 — 高部宿編 —

高部地区には魅力的な文化遺産が数多く存在します。高部館の城下町に起源をもち、今も町の中心地であり続ける高部宿の地割は、江戸時代からほとんど変わっていません。江戸時代から近現代にかけて造られ、現在まで守り伝えられてきた趣ある建造物の街並みを森と地域の調和を考える会では、地域の歴史的資源と考え、所有者の保存活動を支援する修復事業に取り組んでいます。



高部宿

岡山家養浩園



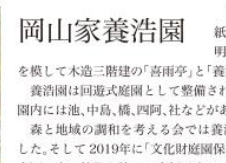
養浩園門復元/2017年



文化財庭園保存技術研修会/2019年



木橋復元/2014年



あずま屋補修/2017年



草刈り、落ち葉さらい、池整備



高部宿案内板設置/2017年

岡山家養浩園

岡山家は江戸時代には特産の和紙を扱う紙問屋で、その後酒造業を営んでいました。明治20年(1887)頃に水戸藩家園の好文亭を模して木造3階建の「喜雨亭」と「養浩園」が造営されたと伝えられています。養浩園は回遊式庭園として整備され、3,000㎡(南北約80m、東西約40m)の園内には池、中島、橋、四阿、社などがあります。森と地域の調和を考える会では養浩園を地域資源として整備を進めてきました。そして2019年に「文化財庭園保存技術者協議会」の研修会場に選定され、全国の高い技術を持った庭師の方々によって築造当時の美しさが甦りました。



平塚家時計塔

大正8年に建築された時計塔は高部宿のシンボルの存在です。



天日様

天祀神を祀る宗敎施設です。天祀神は「馬祖(ます)」とも呼ばれ、もとは中国で航海を守る女神でした。その後日本にも伝わり、近畿地方でも高部の天日様を含めて数箇所を祀る社が数例確認されています。高部前に住む女性たちの信仰を集めていたと考えられます。



間宮家住宅

明治35年に建築。木造2階建一部3階建193㎡。伝統的な農家風2階建の和風棟と東側に接続する3階建て洋館からなる木造和洋折衷住宅です。国登録有形文化財(平成15年7月1日登録)。



平塚家見世蔵

見世蔵は商家建築の一種で江戸時代以降に流行った住宅建築様式です。平塚家は大地主で、屋号は「米風」上物の外郎屋でした。まろずが(衣袋、みそ、しょう油等)の専売品や衣服で金目のものは蔵の中に納めていたようです。



大森家古文書

大森家は、紙を扱う問屋、商家、天保源に属し、水戸藩から名字奉行が寄され「山横目」の職に就きました。多くの古文書が残されています。



国松家旧郵便局

旧郵便局舎は1907年(明治41年)建築。大森家から移りされました。



岡山家喜雨亭

明治20年頃、水戸藩家園の好文亭を模して作られた3階建ての檜葺、杜若の詩「春夜喜雨」をモチーフとした。昭和30年代を中心とした、戦後復興期に作られた庭園として利用されていた当時の姿が「養浩園」にあります。



旧金杉屋旅館

江戸時代末に創業し、昭和130年頃まで営業していました。高部宿が林業・和紙・製紙・海産物などを中心として栄えていた時代に作られた庭園として利用されていた当時の姿が偲べれます。

高部宿の街並みの一部
平塚家時計塔(昭和八年三月)



Ⅱ．2020年度活動概要報告



Ⅱ．2020年度 活動概要報告

1. 「木の駅プロジェクト美和」

1) 出荷の状況

(単位 : m3)

期	出荷材	寄付材	ボランティア	新材	計
第十七期	75.99	0.0	0.0	0.0	75.99
第十八期	75.72	6.28	0.0	0.0	82.00
通期合計 (第1～18期)	2,920.86	171.92	171.43	22.52	3,286.73

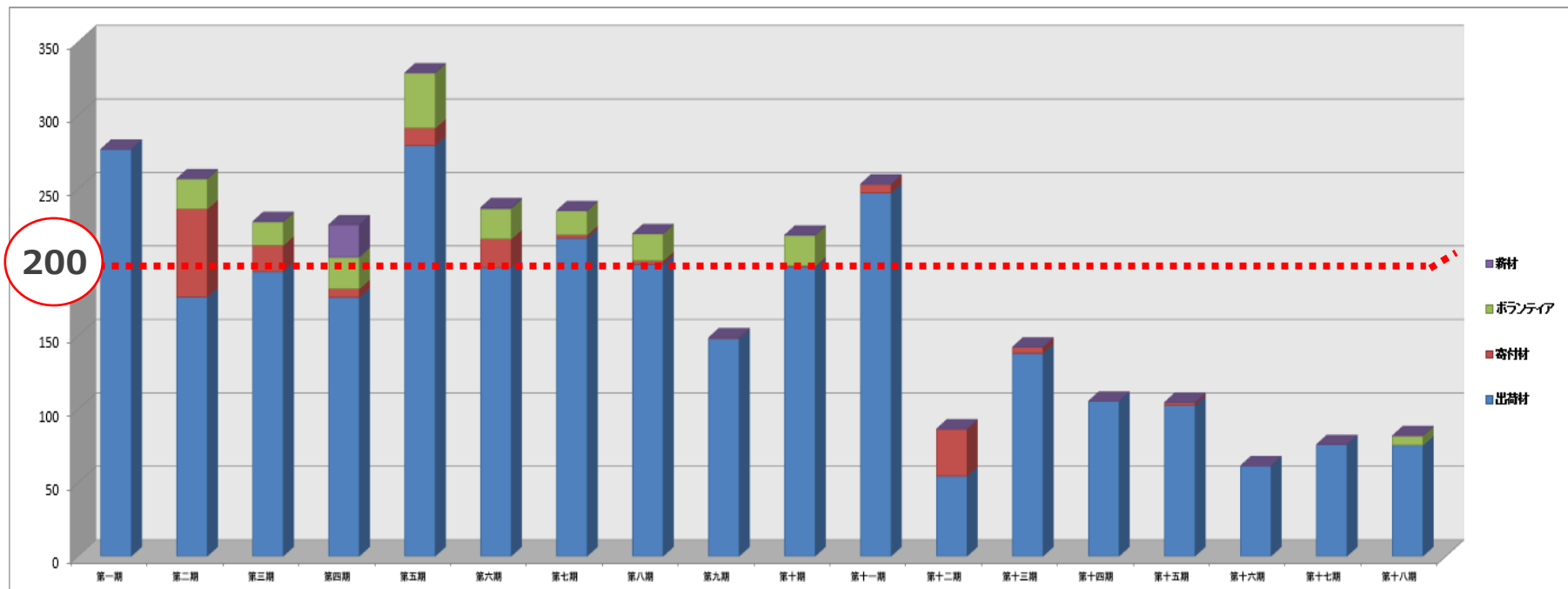
【実施期間】 第十七期 : 2020.6.13 ~2020.7.31 / 第十八期 : 2020.10.24~2021.3.31

Ⅱ. 2020年度 活動概要報告

2) 出荷量の推移

通期出荷累計：3,286.73 m3 軽トラ：6,573 台※

(単位：m3)



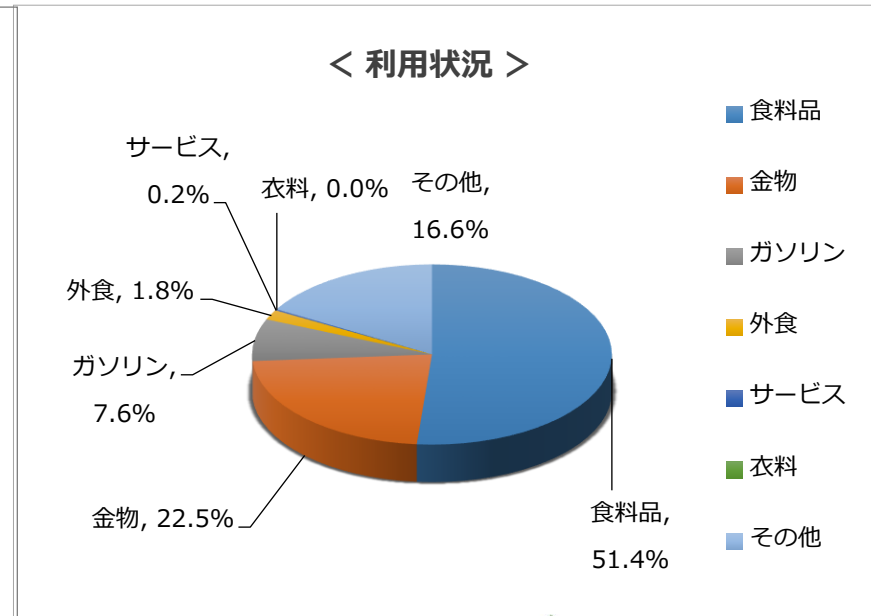
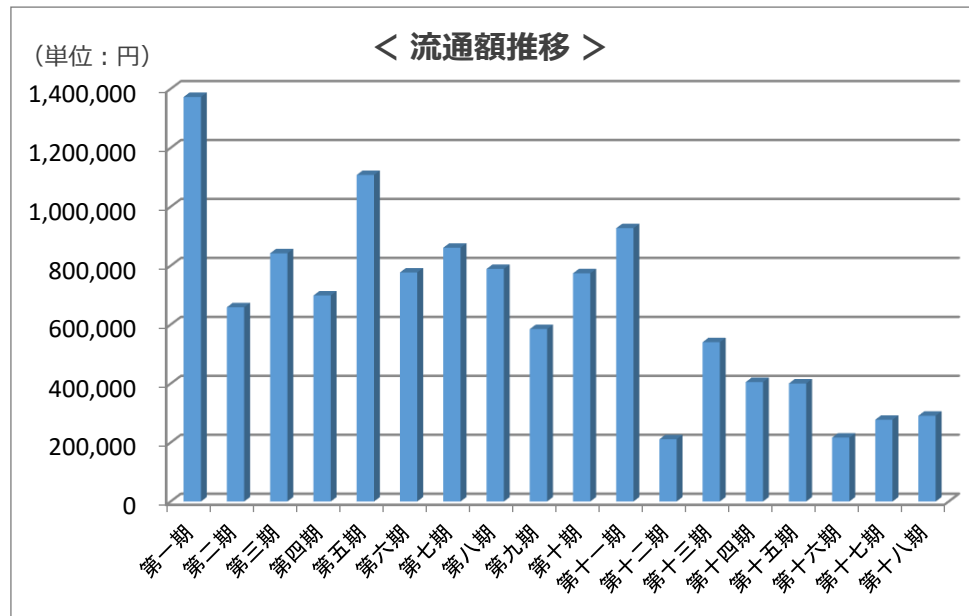
※軽トラ 1台あたり“0.5m3”で計算しています。

Ⅱ. 2020年度 活動概要報告

3) 「モリ券」の発行・利用状況（経済効果）

※第1期のみ青モリ券は1,500円で発券

期	モリ券	青モリ券	赤モリ券	発行枚数	金額換算
第十七期	223 枚	27 枚	28 枚	278 枚	278,000円
第十八期	236 枚	29 枚	29 枚	294 枚	294,000円
通期合計	10,038 枚	1,083枚	633 枚	11754 枚	11,782,500円



Ⅱ．2020年度 活動概要報告

4) 「木の駅プロジェクト美和」の成果と課題

【成果】

- ・ 第十七期、第十八期共に従来から目標としていた200立米をクリアすることはできなかったが、年間150立米を超える木材を出荷頂けた。
- ・ 道の駅「みわ」と連携して、前期に製造した良質な薪の販売を行い、年間で約68.7万円を売り上げることができた。毎年購入してくれる方もおり「美和の薪」の知名度は着実に向上している。
- ・ 森林教室/環境教室はコロナを考慮し、出前授業を1回行った（美和小5年生）。森の働きについて、子供達に興味を持ってもらうことができた。
- ・ 森林整備は着々と進んでおり、地域の経済効果につながっている。
- ・ “地域の問題は地域で解決する”という地域自治の意識が広がり、地域の方々の参加によって美和地域の絆も深まっている。

【課題とその取り組み】

- ・ 作業中の安全確保を第一優先事項とする。期初講習は毎回継続する。
- ・ 高齢化もあり、出荷者数並びに出荷量が減少している。森林整備は確実に進んでいるが、当プロジェクトの運用について協議していく。
- ・ 薪販売は好評を得ており、道の駅「みわ」の協力を得ながら継続的な販売ができるように取り組む。

Ⅱ. 2020年度 活動概要報告

2. 当会活動の様子（抜粋）①

岡山邸「養浩園」整備・橋掛け作業
(2020.04.19)



「美和の薪」販売会
(2020.12.19、2021.2.11)



「森林教室 美和小（出前授業）」
(2021.2.19)



Ⅱ. 2020年度 活動概要報告

2. 当会活動の様子（抜粋）②

第18期 合同出荷会
(2021.02.27)



案内看板設置「桧澤城」「高部向館」
(2021.03.06)



「大森邸・養浩園」整備作業
(2021.4.24)



Ⅱ. 2020年度 活動概要報告

3. イベント及びボランティア参加人数

活動	2013 H25	2014 H26	2015 H27	2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 R01	2020 (R02)	延べ人数
イベント 参加者数	80	210	275	710	260	162	146	67	1,910名
ボランティ ア参加者数	203	284	265	204	178	207	262	171	1,774名

【成果】

当期は新型コロナウイルスにより、後半のイベントを中止したこともあって参加者は前年を下回ったが、実施すれば毎回定員を上回る参加希望者があり予想以上の成果につながっている。これも、行政関係者や地域の皆様にボランティアとして協力頂いたおかげである。これらの活動が、地域コミュニティの活性化にもつながっている。

Ⅲ. 2020年度 活動計画と実績



Ⅲ. 2020年度 活動計画と実績

1. 当会の活動計画と実績①

活 動	取 組 み	目 標 / 実 績	評 価
木の駅プロジェクト美和	第十七期：2020年6月13日 ～ 7月31日 第十八期：2020年10月24日 ～2021年3月31日	目標：200m3以上/期 実績：第十七期、第十八期 共に未達	未達
森林教室	年3回 実施計画 近隣小・中学校への参加働きかけ ※森林教室と環境教育は関係しているため、 併せて実施する。	目標：3回 実績：1回 美和小5年生 参加者数：15名	達成
環境教育		※コロナ禍を考慮し、 1回のみ実施	
整備済み城郭整備	整備：2020年度中 地元有志を含めた作業の実施	継続整備 継続実施できた	達成
街並み保存事業	岡山邸整備：2020年中 （「養浩園」整備など）	継続整備 継続実施できた	達成

Ⅲ. 2020年度 活動計画と実績

1. 当会の活動計画と実績②

活 動	計画・取り組み	目 標／実 績	評価
薪販売事業	道の駅「北斗星」とのタイアップによる営業展開と新たな販売方法やルートを開拓（継続）	目標：薪材入手と製造 実績：薪材入手、製造 販売額 68.7万円	達成
イベントの実施	①中世の城郭ツアー	実績：2020年11月29日 ふるさと再発見ウォーキング 檜沢地内及び檜沢城跡 ※コロナ禍を考慮し、 イベントを控えた	達成
	②歴史探索ツアー 「檜沢城・桧沢地区文化財巡り」		
歴史文化工芸 伝承活用事業	地域の歴史及び歴史的価値遺産の発掘と活用、鷺子和紙復活、昔の農具等の活用	継続検討中	継続
地域活性化の 計画立案策定	当会のこれまでの活動を基に、これからの地域活性化モデルについて検討、計画する。	継続検討中	継続

IV. 2021年度 活動計画



IV. 2021年度 活動計画

1. 当会の今後の取り組み ①

活 動	取り組み	目 標
木の駅プロジェクト 美和	第十九期：2021年6月26日 ～8月31日 第二十期：2021年10月9日 ～2022年3月31日	継続実施を優先
森林教室・環境教育	年3回 実施予定 ※新型コロナの状況を踏まえ開催を決定する	実施回数3回
中世の城郭整備 活用事業	新発見「(仮称) 柏木城」調査研究 高沢城 整備	調査研究・整備
	整備済み城郭再整備計画	立案・実施
	高部館・向館、河内城・向館、小田野城、檜沢城の維持作業	継続整備

IV. 2021年度 活動計画

1. 当会の今後の取り組み ②

活 動	取 組 み	目 標
街並み保存事業	大森邸整備事業：4月24日（実施済み） 岡山邸「養浩園」整備：6月、11月予定	継続整備
薪製造・販売事業	薪製造：6月～8月 美和の薪販売会：12月頃予定	シーズン前に 薪販売イベント開催
イベントの実施	歴史探索ツアー「高沢城」ほか	2022年2～3月頃 計画
地域活性化の計画立案策定	当会のこれまでの活動を基に、これからの地域活性化モデルについて検討、計画する。	年度内予定

V. 「SDGs(持続可能な開発目標)」と当会の活動



「持続可能な開発目標」とは、2015年9月の国連サミットで採択された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。**私たちの活動もこの取り組みにつながっています。**

(参考) 「地方創生に向けた自治体SDGsの推進について」
平成29年12月 内閣府地方創生推進事務局 作成

＜当会の取り組みと関連する主なテーマ＞



VI. 常陸大宮市の宝(資源)

観光資源となるような自然

歴史的価値のある品物

史跡などの歴史が感じられる場所、建物

豊富にある資源

城跡

伝統的な仕事、行事

サイクリングやウォーキングに適したルート

由緒ある神社、仏閣

自然を生かした遊びやスポーツができる場所



VII. 地域活性化を成功させるのは「人」



VIII. おわりに

当会の活動は、地域の皆様のご支援とご協力に支えられ、おかげ様で構想から10周年を迎えることができました。改めて心より御礼申し上げます。

私どもの活動は、美和地域の「宝」をつなぎ、この地域全体に活気と明るさが広がることを目指した取り組みです。年を重ね、会のメンバーの体力も少し落ちてきましたが、気持ちは変わらず、2020年度も地域の皆様の協力を得て、様々な取り組みを実施することができました。コロナ禍のため一部イベントは中止となりましたが、我々の活動は屋外が主であり、あまり影響を受けなかったことは幸いです。コロナに負けず、これからも地域の皆様と共に活動してまいりたいと思います。

引き続き、当会活動へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

尚、ご一緒に活動頂ける方を募集しております。是非、当会までご一報ください。お待ちしております。

森と地域の調和を考える会

「木の駅プロジェクト美和」実行委員会 一同